

す者は、かれらの教授者といっしょに勉強し、そしていくらかの奉職教育をする機会を与えられるであろう。

○「体育510」 5年女子

上の「体育509」と同じ。

○「矯正読書914」 2年

51頁参照

○「裁縫914」 2-5年

参加する生徒の能力に適應させられる被服製作。裁縫の、以前の経験は必須ではないが助けになるであろう。この科目の生徒は当然若干の衣料、模型、その他の小さな必要物を買ねばならない。

○「社会認識916」 3, 4, 5年

この科目は社会における各個人の発達を調べる。われわれは次の項目を取扱う。すなわち、感受性の訓練、人類学と人口抑制、戦争、墮落、政治上の出来事、履歴、宗教と不思議な力、性。その他関連項目が生徒により導入されてもよい。

生徒は当然、若干の授業時間外の読書をし、クラス討議に参加しなければならない。

担当教師は4名。

## Ⅶ 被監督および自主の学習

学校は、限られた人数の生徒に「被監督学習」または「自主学習」の名称をつけられたハーフコースを提供する。生徒は、これらのうち1つに限り、そして親と学校管理者の書類による同意がある場合に限り、許可されることができる。それらは自由な時間ではない。それで、そのようにこれらの時間を使うことの罪を犯した生徒はだれでも、直ちにこの特権を喪失する。

○「被監督学習800」 3, 4, 5年

生徒は、係の教師の監督のもとにリゾース・センターにおいて毎2日1時間を費してもよい。生徒は、履習中の学科に関係した研究課題を当然勉強すべきであり、そして、係の教師が、生徒の勉強の準備のさい若干の援助を与えるように、用意される。これは明かに、生徒がこの1時間に宿題の研究課題を完成することができない。ことを意味しない。

出席がとられる。

○「自主学習801」 4, 5年の選抜された生徒のみ

生徒は、図書館で毎2日1時間を費やし、そこで自主的研究、読書、その他の個人学習をやるであろう。志願者が注意深く審査され、そして、より円熟してまじめな生徒だけがそのようなプログラムに作られることは、当然である。

出席がとられる。

## ケベック州のハイスクールの学習指導要領

ケベック州の教育省初等中等教育局が発表した第1回の高等学校学習指導要領 High School Course of Study は、公式の教育課程を制定し、同時に1972/73年度におけるそれらの緊密な結合とオリエンテーションを説明している。いま、Yearbook 03 1972-1973 Secondary Education (General) For English-language Schoolsによって、ケベック州の高等学校普通科目のカリキュラムを見てみたい。

## I 普通科目の教育課程

はじめに、ケベック州高校普通科目の全学科・科目を一覧する。その記述についての注意は以下のようである。

最初の符号は、その科目に関する教授と活動に規則どおりに充当されるべき授業時間数を示し、□が180，○が90，△が75，・が30である。

各科目は6つの数字からなるコードにより表わされる(例 760-110)。

第1番目の数は部門を表示する。

次の2つは学科を表示する。

第4番目は標準の学年段階 level を表示する。

第5番目は同一であることの確認 identification を表示する。

最後の数字は卒業資格 certification の目的のための単位 unit の数字を表示する。

「 」のなかは科目 course の名称である。そのコードは、上述の科目コードの後半であるがその最末尾の卒業証明書の単位を省略するもの、さらに同一の確認を2つの数字で表示するものが僅少ながある。

反対側のある科目に見えるAP, PC, CRはそれぞれ絶対必要条件, 推薦必要条件, 同時必要条件を表わす。

絶対必要条件(AP)とは、例外なしに生徒が次の科目を始める前に及第していなければならない科目である。

推薦必要条件(PC)とは、生徒が次の科目を始める前に取って及第した方がよい科目である。しかしながら推薦必要条件は次の科目に及第するための直接条件であると考えられていない。

同時必要条件(CR)とは、以前にかまたは関係科目と同時に取らねばならない科目である。

### 学科・科目の番号順一覧表

□ 600-220 「生物 222」	△ 692-520 「体育(女子)」	
□ 600-412 「 " 411」	□ 700-522 「化学 52」	
□ 600-422 「 " 421」	□ 701-512 「 " 41-51」	
△ 605-120 「個人・家族・市民・経済の教育」	□ 702-512 「 " 41-51」	
△ 605-220 「 " "」	□ 711-100 「数学 100」	
△ 605-320 「 " "」	□ 711-200 「 " 200」	AP 711-100
△ 605-420 「 " "」	□ 711-302 「 " 302」	AP 711-200
△ 605-520 「 " "」	□ 711-110 「 " 110」	
△ 690-120 「体育(男子)」	□ 711-210 「 " 210」	AP 711-110
△ 690-220 「 " ( " )」	□ 711-310 「 " 310」	AP 711-210
△ 690-320 「 " ( " )」	□ 711-412 「 " 412」	AP 711-310
△ 690-420 「 " ( " )」	□ 711-120 「 " 120」	
△ 690-520 「 " ( " )」	□ 711-220 「 " 220」	AP 711-120
△ 692-120 「 " 女子)」	□ 711-320 「 " 320」	AP 711-220
△ 692-220 「 " ( " )」	□ 711-422 「 " 422」	AP 711-320
△ 692-320 「 " ( " )」	□ 711-130 「 " 130」	
△ 692-420 「 " ( " )」	□ 711-230 「 " 230」	AP 711-130

□ 711-330「数学 330」	AP 711-230	○ 810-421「カトリック宗教教育 421」
□ 711-432「〃 432」	AP 711-330	○ 810-541「〃 521」
□ 711-512「〃 512」	AP 711-320 か 711-412	○ 810-521「〃 」
□ 711-522「〃 522」	AP 711-422 か 711-512	○ 810-531「〃 」
□ 711-532「〃 532」		○ 811-120「道徳・宗教教育（プロテスタント）」
AP 711-422 か 711-432 か 712-432		○ 811-220「〃 (〃 )」
□ 711-552「〃 552」		○ 811-320「〃 (〃 )」
□ 712-130「〃 M-130」		○ 811-421「〃 (〃 )」
□ 712-230「〃 M-230」	AP 712-130	○ 811-521「〃 (〃 )」
□ 712-330「〃 M-330」	AP 712-230	○ 812-310「宗教文化 331」
□ 712-432「〃 M-432」	AP 712-330	○ 812-411「〃 431」
○ 713-422「代数 422」		○ 812-511「〃 531」
○ 714-422「幾何 422」		○ 815-110「道徳教育 11（カトリック）
□ 714-442「〃 442」		青春期とその環境」
AP 711-320 か 711-330		○ 815-210「〃 21 (〃 )
□ 714-452「〃 452」		個人の青春期と変容」
AP 711-320 か 711-330		○ 815-310「〃 31 (〃 )
CR 711-422 か 711-432		青春期と他人とのコミュニケーション」
□ 720-432「物理 432」		○ 815-411「〃 41 (〃 )
□ 720-512「〃 41-51」		○ 815-511「〃 51 (〃 )
□ 720-522「〃 52」	AP 720-422 か 720-432	青年と参加」
□ 720-452「〃 452」		○ 825-120「家庭 121」
□ 720-552「〃 552」	AP 720-452	「〃 421」
□ 720-220「自然科学 220」		○ 825-411「家族生活」
□ 723-220「一般理科 220」		○ 825-421「食物と栄養」
□ 723-412「〃 411」		○ 825-431「衣服と織物」
□ 725-210「技術入門」		○ 825-441「住居とデザイン」
□ 800-110「地理 12」		○ 874-412「経済入門 41」
□ 800-310「世界の一般地理 31」		○ 000-110「造形美術 11」
□ 800-412「地理 42」		○ 000-210「〃 21」 PC 000-110
□ 800-512「〃 51」		○ 000-310「〃 31」 PC 000-210
□ 800-522「〃 52」		○ 000-320「〃 32」 PC 000-210
□ 805-210「歴史 21」		○ 000-412「〃 41」 PC 000-310
□ 805-310「〃 31」		か 000-320
□ 805-412「〃 41」		○ 000-422「〃 42」 PC 000-310
□ 805-512「〃 51」		か 000-320
○ 805-522「〃 52」		○ 000-512「〃 51」 PC 000-412
○ 810-120「カトリック宗教教育 121」		○ 000-522「〃 52」 PC 000-422
○ 810-220「〃 221」		・ 002-120「演劇 12」
○ 810-320「〃 321」		・ 002-220「〃 22」

<input type="checkbox"/> 002-320「演劇 32」	PC 002-120 か 002-220	<input type="radio"/> 051-320「北アメリカ文学 32」
<input type="checkbox"/> 002-422「〃 42」	AP 002-320	<input type="radio"/> 051-522「〃 52」
<input type="checkbox"/> 002-522「〃 52」	AP 002-320	<input type="checkbox"/> 051-512「商業英語 51」
<input type="checkbox"/> 003-542「音楽と美術 54」	PC 005-210	<input type="checkbox"/> 052-310「スペイン語 31」
	000-210	<input type="checkbox"/> 052-412「〃 41」 AP 052-310
<input type="radio"/> 005-110「音楽 11」		<input type="checkbox"/> 052-512「〃 51」 AP 052-412
<input type="radio"/> 005-120「〃 12」	PC 小学校での音楽表現	<input type="checkbox"/> 061-110「フランス語 11(軽減)」
<input type="radio"/> か <input type="checkbox"/> 005-130「〃 13」	PC 同上	<input type="checkbox"/> 061-210「〃 21(〃)」
<input type="radio"/> 005-210「〃 21」	PC 005-110	<input type="checkbox"/> 061-310「〃 31(〃)」
<input type="checkbox"/> 005-220「〃 22」	PC 005-120	<input type="checkbox"/> 061-422「〃 411(〃)」
<input type="checkbox"/> 005-230「〃 23」	PC 005-130	<input type="checkbox"/> 061-522「〃 511(〃)」
<input type="radio"/> 005-310「〃 31」	PC 005-210	<input type="checkbox"/> 061-120「〃 121(正規)」
<input type="checkbox"/> 005-320「〃 32」	PC 005-220	<input type="checkbox"/> 061-220「〃 221(〃)」 AP 120
<input type="checkbox"/> 005-330「〃 33」	PC 005-230	<input type="checkbox"/> 061-320「〃 321(〃)」 AP 220
<input type="radio"/> 005-412「〃 41」	PC 005-310	<input type="checkbox"/> 061-422「〃 421(〃)」 AP 320
<input type="checkbox"/> 005-422「〃 42」	PC 005-320	<input type="checkbox"/> 061-522「〃 521(〃)」 AP 422
<input type="checkbox"/> 005-432「〃 43」	PC 005-330	<input type="checkbox"/> 061-531「〃 531」 AP 061-422
<input type="checkbox"/> 005-512「〃 51」	PC 005-412	<input type="checkbox"/> 062-512「商業フランス語」 AP 061-422
<input type="checkbox"/> 005-522「〃 52」	PC 005-422	<input type="checkbox"/> 064-320「ギリシア語 32」
<input type="checkbox"/> 005-532「〃 53」	PC 005-432	<input type="checkbox"/> 064-422「〃 42」 AP 064-320
<input type="checkbox"/> 040-310「ドイツ語 31」		<input type="checkbox"/> 064-522「〃 52」 AP 064-422
<input type="checkbox"/> 040-412「〃 41」	AP 040-310	<input type="checkbox"/> 068-310「イタリア語 31」
<input type="checkbox"/> 040-512「〃 51」	AP 040-412	<input type="checkbox"/> 068-412「〃 41」 AP 068-310
<input type="checkbox"/> 040-120「英語 12」		<input type="checkbox"/> 068-512「〃 51」 AP 068-412
<input type="checkbox"/> 049-220「〃 22」		<input type="checkbox"/> 072-320「ラテン語 32」
<input type="checkbox"/> 049-320「〃 32」		<input type="checkbox"/> 072-422「〃 42」 AP 072-320
<input type="checkbox"/> 049-422「〃 42」		<input type="checkbox"/> 072-522「〃 52」 AP 072-422
<input type="checkbox"/> 049-522「〃 52」		<input type="checkbox"/> 072-432「〃 43」 AP 072-320
<input type="checkbox"/> 049-310「〃 311」		<input type="checkbox"/> 072-532「〃 53」 AP 072-432
<input type="checkbox"/> 049-412「〃 411」		<input type="checkbox"/> 076-310「ロシア語 31」
<input type="checkbox"/> 049-512「〃 511」		<input type="checkbox"/> 076-412「〃 41」 AP 076-310
<input type="radio"/> 051-220「北アメリカ文学 22」		<input type="checkbox"/> 076-512「〃 51」 AP 076-412

このケベック州の高校カリキュラムからうかがえる、いくつかの特徴を挙げてみたい。

まず第1に、1つの科目の年間授業時間数が、ほとんど180で、多く、週5日制のカナダの学校では大部分の科目は毎日1時限の授業がある、ということになる。日本流に言えば5単位の科目が、原則になっている。しかしながら、1か年で完結する大単位制ではない。州の統一試験をとともう高校卒業証明書のための単位制度が、最小限5学科の履修をもって足りることもあって、学年必修的なシーケンス学習を要求する学科がきわめて多い。したがって、生徒はいくつかの学科に、時間をかけて、じっくりと学習することが望まれている、といえよう。「経済」だけが、高校を通して180時間の授業をもって完結できる。

第2に、学科のカリキュラムが多様化されている。1つの学校で一貫した中等教育を施すこともあって、生徒の能力・興味および志望の必要と、地域社会や学校の事情とに、適切に応じることができる教育課程が制定されている。

第3に、カナダの特殊事情を反映するものとして、2つの国語の同時学習と宗教教育がある。

18世紀後半にフレンチ・カナダがイギリス領に併呑されてから2世紀間、北アメリカ大陸が英語を常用語とする人たちで満たされ、その片隅に置去りにされた形のケベックの人々は、イギリス系の人間に支配されるままに、自分たちの言葉（フランス語）と宗教（カトリック）にしがみついで生きて来た。ために、ケベックでは英仏両語が併用され、今日、小学校1年から両公用語が教育される。しかし、英語を話す生徒にとっては、“国語”は英語であり、“第2国語”のフランス語はあたかも“外国語”のような存在である。また、フランス語を話す生徒にとっては、この逆である。

昔から神の名においてケベックの人心を把握して来たカトリック教会の支配下にあった、ケベックの一般学校教育では宗教・人文関係だけが強調されてきた。この伝統がいまだに学校の教育課程に残存する。もちろん、既述のモントリオール・ウエスト高校のように、近代化された公教育は宗教教育を排除するが、公的教育制度のなかに多種・多数の宗教科目が提供されることは、カナダのような先進国においては大きな特色である。また、道德教育や市民教育のための学科が提供されていることは、アメリカの進歩的な学校教育においてこれらのものが“社会科”のもとに包括されることと、あきらかに対比できる。

総じて、ケベックの高校の教育課程には、その構成に、戦前の日本の中学校のものを連想させるような、旧いものが感じられる面があるが、また、大幅な学科・科目の選択制や学科教育の多様化という、現代教育思想の摂取のような、新しいものが感じられる面もある。

次に、ケベックらしい特色のある、いくつかの学科のカリキュラムを掲げてみる。

## Ⅱ 英 語

### 「英語12-52」

#### (i) 言葉と作文

基本的目標は、生徒が達成できる言葉に、生徒が最大の支配を獲得できる手段を、生徒に与えることである。言葉の指導計画は、生徒が始めるであろう勉強の仕方と、かれらがもつ暇の使い方を教えるべきである。

直接の目標は、

- 生徒に、自己発見およびコミュニケーションの道具として言葉を使うことを勧めること。
- 生徒を、自分を中に見出す多くの生活場所に、そしてそれらの場所で使う必要がある多種の言葉に親しませること。
- 生徒を、かれの生活や地域社会の生活の中で言葉の演ずる役割に気付かせること。

#### 教科書と参考書

「言葉と作文」用のすべての教科書は、English Language and Literature Courses for Secondary Schoolと題する公文書225の中に表示される。

#### (ii) 文学

「文学」科目は、生徒に、散文と韻文の文章構成の主要な型を表わす、現代およびより昔の作家たちの作品から精選され、そして、各学年の生徒の能力と興味に適した、文学的価値のある広汎な

範囲の教材に親しませることを、企図する。

直接の目標は、

- 優れた文学を読むこと。
- 1つの文学作品にかかわるようになり、意味を見出し、そして評価すること。
- 文学と文学経験の中に継続的な興味と参加を発達させること。

「文学12-52」の学習指導要領は、詩、散文、戯曲およびノンフィクションから構成される。教科書や参考書は文書Ⅱ225から選択されてよい。これは、学校体系と英語科に、かれらの哲学や特殊な必要に適合させるように課程を編成することを許すのみならず、またまったく違った指導計画を選ぶことも許す。

#### 統一試験

「英語52」に2つの試験、すなわち「文学」に1つと「作文」に1つがある。試験問題は最近検定された各種の教科書およびその他の書物を考慮するであろう。

#### 「英語311-511」

この科目の基本的目標は、

- 高校教育を完成した後就職するであろう生徒に、わかりやすくて有用な、英語の経験と活動を提供すること。
- より少ない能力の生徒がときどき英語にもつ無感動に打勝つこと、成就の意識を激励すること、そして、生徒に自己改善と知的成長の刺激を与えること。

直接の目標は、

- 読む技術を改善すること。
- （口頭および筆記の）コミュニケーションの技術を改善すること。
- 新聞や雑誌を読むこと、放送やレコードを聴くことと批評、手紙やレポートを書くことと、のような実面的な方面の英語に訓練を提供すること。
- 価値がありそして人をひきつける選集への集中的な学習を通して、文学の理解と認識を増すこと。

科目のあらまし、教科書と参考書は、文書Ⅱ225および224に見出される。

#### 統一試験

1つが「作文」1つが「文学」の、2つの試験が「英語511」を完成してしまった生徒に設けられる。それらは高校卒業資格に必要な18単位を構成するために使ってよい。しかし、一般のカレッジまたは大学へ進みそうにない生徒のために「英語511」が開発されたことを銘記しなければならない。この科目はそれらへの入学に要求される規準に合わないかもしれない。

### **Ⅲ 第2国語としてのフランス語**

#### 一般的目標

1. 話される言葉を理解する上での改良
  - a 組織的な音の識別練習により
  - b テープに巻かれた会話と歌、翻訳されたテキストの朗読、等を使う耳の理解練習により
2. 口頭表現上の改良
  - a フランス語の音の体系の練習により
  - b 口頭で読む練習により
  - c 指導される会話、口頭の説明、討議を通じた練習により
3. 読書における改良

- a 集中的な読書，すなわち，認可された手引書や教科書からや，高校の各学年に提供される言語学の指導計画にとり比較的に難かしい水準の補助教材から，作成された材料により
- b 広汎な読書，すなわち高校の各学年の言語学の指導計画に提供されるものよりも平易な補助教材により

#### 4. 書かれる表現における改良

- a 話される表現から書かれる表現への移り変わりを目的とする練習により
- b 指導される作文（とくに，1，2，3年）と自由作文（4，5年）により

#### 指導計画

- |                                   |                         |
|-----------------------------------|-------------------------|
| ○ フランス語の言葉の音声体系                   | ○ 所有形容詞                 |
| ○ もっとも一般に使われる規則および不規則動            | ○ 部分を示す語                |
| 詞の直説法の現在時制                        | ○ かんたんな副詞および名詞の単数形と複数形  |
| ○ 命令形                             | ○ 指示形容詞                 |
| ○ 過去分詞                            | ○ 単純形の代名詞と疑問形容詞         |
| ○ 定冠詞と不定冠詞                        | ○ 主格，目的格形（直接と間接），前置詞の補語 |
| ○ フランス語における性と数の概念                 | としての代名詞                 |
| ○ 形容詞の一致と文章構造中のそれらの位置             | ○ 数・日・月・季節・年の名称，時刻      |
| ○ de と <sup>^</sup> a をともなう冠詞の短縮形 | ○ もっとも一般に使用される否定        |

#### 所見

改正された要素の上表はすべてを尽すものではない。すなわち，それは，小学校のフランス語教育のため認可された各種の言語学指導計画の中に，少数の稀な例を除き，提供される限られた基礎的言語学プログラムしか含まない。

「フランス語 111－511（軽減）」

#### 指導計画

公文書 № 422 参照

「フランス語 121－521（正規）」

#### 指導計画

公文書 № 406 参照

「フランス語 531」

この科目は，フランス語に優れた能力を有し，ほとんど矯正学習を必要とせず，しかも「フランス語 521」に提供されるものよりも精巧な読書プログラムを引受ける地位にある，5年生のために，もっと進んだ文学作品を含み，言葉とその駆使のより高等な知識を獲得することを目的として，企図される。

## Ⅳ 数 学

「数学 100，200，302」

#### 目標

だいたい4年の数学まで進まないであろう，短期職業訓練グループからの生徒の，個人的な興味と必要に適合する。応用数学のいくつかの要素を提供すること。

#### 内容

各教育委員会によって決定される。

### 註記

「数学100」に入れられた生徒は、小学校の期間に出会ったかもしれない特殊な事情を考慮して、入念な教育が与えられるべきである。高校プログラムの普通の類型 stream に入る資格があると考えられる、選ばれた生徒には、「数学110」への進級ができる。

1年に始まるコード番号があるけれども、類型づけが例えば1年か2年ではじまることは強制的でない。類型づけは、地方の切迫した事情と関連して、生徒の最適な分類を満足することを要求される。

「数学110, 210, 310, 412」

### 目標

だいたいカレッジに将来進みそうでない生徒に、かれらのうち多くのものが4年以上の数学に進まないであろうことを考慮して、かれらの要求と興味への訓練を提供すること。

### 内容

- 集合、数の集合、演算技術、一元一次方程式と不等式、二元一次方程式、二次方程式（グラフ解法）、応用。
- 幾何：線の直観的概念、線分、角、三角形、四辺形、作図、相似三角形、三角法の比、ベクトル、応用。
- その他の応用：百分率、図形に描く統計値。

### 註記

これらの各科目の指導計画は、州のプログラムに含まれる教材を4か年間に配分することを、大幅な程度で地方の教育委員会に許している。

「数学120, 220, 320, 422」

### 目標

多くのものが高校以上に勉強を続けるであろう、正規 regular（および強化 enriched）の類型の生徒が、集合と関数の現代的概念の助けで新たな前途をもった代数の初歩を内容とし、また幾何の実用的知識に加えて直線の解析幾何を内容とする、数学の基礎的訓練を受けることを保証すること。

### 内容

- 集合、数の体系、演算技術（べき指数、多項式、有理分数）、一次および二次方程式、方程式の体系、一元一次方程式、各種の関数（一次、絶対値、二次、二乗根、直接変分、逆変分）。
- 直観的および実用的幾何の概念                      ○直線の解析幾何

### 註記

これらの各科目の、上述のプログラムが4か年のうちに扱われる以外の、内容は各教育委員会で規定される。

「数学130, 230, 330, 432」

### 注意

これらは、生れつき才能のある生徒向けに企画された、「数学120-422」強化版である。

「数学512」

### 目標

この科目は、職業教育のなかの多くのプロファイルの必要条件を充たすことの、または「数学422」で得られるよりも多くの応用的アプローチで数学をやることの、どちらの可能性も提供する。それ



は、「数学 522」の準備科目であることができると同様に、終着科目であることもできる。

#### 内容

○集合、数の体系（概算そして計算尺による計算の手ほどきを含む）、運算技術、等式と不等式、関数、直線の解析幾何。

○次の組のうち1つの（選択）学習：

- a 電子機械の技術における（幾何と三角の）応用
- b 会計事務への（数列、対数、複利や年金の）応用
- c 消費者への（貸付、購買、広告、投資、所得税などの税金、いろいろの情報の）応用

#### 註記

この科目は職業教育の、あるプロフィールに推薦される。これらのプロフィールは選択ブロックのなかからの選択を命令する。

「数学 320」に成功した生徒に役立つ。この科目は「数学 412」を習得した生徒のうち上位半分のものにのみ与えられるべきである。

「数学 512」は多くの生徒にとり終点である。（生徒のうち上位半分のものは、規則として、成功の可能性をもって「数学 522」に入るであろう。）

#### 「数学 522」

#### 目標

この科目は正規類型の生徒に、数学が含まれるすべての前カレッジ準備を提供することを、目的とする。「数学 522」は、前の数か年間に学んだ数学の総合を扱い、統一された眺望の中に基礎数学を完成することを目的とする。

#### 内容

集合、数の体系、実数、直線の解析幾何および円と放物線の初等概念、絶対値、一次および二次関数、性質と等式をとともう指数および対数関数、三角関数（全等、加法公式、恒常と偏角、三角形の三角法を含む）。

#### 註記

この科目はカレッジ入学準備の正規類型科目である。生徒の、「522」と「532」科目への分類は注意深く着手されねばならない。

#### 「数学 532」

#### 目標

この科目は、じゅうぶんに才能のある生徒のため準備され、主として「数学 522」と同じ目標を目的とするが、しかし知識のより完全な総合および増加する統一をとともう。

#### 内容

論理、集合、実数の整然とした方面、直線の解析幾何および円・放物線・楕円・双曲線の初等概念、絶対値、多項式と有理関数、性質と等式をとともう指数および対数関数、三角関数（全等、加法公式、三角形の三角法、方程式、逆関数を含む）。

#### 註記

この科目は、「数学 432」に成功した生徒、および「数学 422」を習得した比較的成功的な良い生徒のために企画される。「数学 512」に例外的な好成績を獲得した生徒が受容されることさえできる。

#### 「数学 552」

## 目標

生徒にベクトル空間の構造の初歩を教えること。

生徒にベクトル空間幾何である有用な道具を供給すること。

生徒に特別な理解の発達を許すこと。

## 内容

ベクトル代数：ベクトル空間，ベクトル積，行列と行列式，外積と内積。

ベクトル幾何：平面における直線，空間における直線，角，距離，空間における平面，各種幾何図形の領域。

変換：行列，また平面における回転と拡大の行列による説明を使う，平面における変換。

## 註記

この科目はカレッジ一般教養プログラムのベクトル代数・幾何とまったく同じである。

この科目は，州教育省に認可された教育委員会によってのみ，そして公認時に指定される様式（授業時間数，必要条件，同時取得科目，生徒）に従って，開設される。

「数学M-130, M-230, M-330, M-432」

## 目標

いくらかの生徒に，この科目の諸項目の学習を根底で統一する現代的表現により，数学の訓練を獲得させること。

## 内容

○学習または研究の基本的分野：数の体系， $\mathbb{R}$ 中の $\mathbb{R}$ の関係と関数，順列と組合わせ，確率と統計，幾何の研究，ベクトル・座標・転換を伴う幾何。

○したいに使われる（統合するための）言葉と概念の要素：論理，集合，関係，関数，方程式，転換と不変数，構成，流れ図とプログラミング。

## 註記

この科目は，州教育省によりじゅうぶんに認可された教育委員会によってのみ，開設される。

「代数422」

## 目標

多くのものが高校以上に勉強を続行するであろう，正規および強化類型の生徒が，新しい前途をもつ，すなわち集合と関数の現代的概念の助けをもつ，代数の初歩における基礎的訓練を受けることを保証すること。

## 内容

集合，数の体系，運算技術（指数，多項式，有理分数），一次および二次方程式，方程式の体系，一元一次不等式，各種の関数（直線，絶対値，二次方程式，平方根，直接変分，逆変分）。

## 註記

この科目は1973年7月に公式科目の表から抹殺されるであろう。

「幾何422」

## 目標

正規および強化類型の生徒に，演繹的科学としての幾何を勉強する機会を提供すること。

## 内容

○直観的幾何の概念

○演繹的体系としての平面幾何への導入（基本的用語と定義された術語，公理と定理）。

○基本的要素（平面，点，線・・・），線分と角（およびそれらの計測），三角形（とそれらの合同），垂直と平行，多角形（およびとくに四辺形），相似形，円の学習。

○直線の解析幾何。

#### 註記

この科目は1973年7月に公式科目の表から抹殺されるであろう。

#### 「幾何442」

#### 目標

能力のある生徒に選択科目を提供すること。演繹科学としての幾何の初歩を教えられる機会。

#### 内容

○演繹の体系としての平面幾何への導入（基本的用語と定義された術語，公理と定理）。

○基本的要素（平面，点，線・・・），線分と角（およびそれらの計測），三角形（とそれらの合同），垂直と平行，多角形（およびとくに四辺形），相似形，円の学習。

#### 註記

この科目は，「数学320」または「330」を完成してしまった能力ある生徒に（「422」か「432」に加えて）4年で，または「数学422」か「432」を完成した生徒に5年で，のいずれかに提供される。

しかしながら，それはカレッジ入学の必修科目としての「数学522」または「532」に代替えされることができない。

#### 「幾何452」

#### 目標

能力ある生徒に，演繹的科学としての幾何の，しかしより現代的表現により，初歩を教える機会を（選択科目として，そして「数学442」への代替えとして）提供すること。

#### 内容

○演繹の体系としての平面幾何への導入（基本的用語ならびに定義された術語，公理と定理）。

○基本的要素（平面，点，線・・・），転換グループ（行列と相似）と不変，ベクトル。

#### 註記

（「数学442」の註を参照のこと）

## V 化 学

#### 「化学52」

#### 目標

進歩的な徹底の実験を通して化学現象の基礎的原理を理解すること。

#### 内容

化学，実験科学，気体・運動理論，液体と固体，原子構造・周期表，化学反応，エネルギー様相・割合・平衡，溶解と平衡，水溶液中の酸と塩基，原子理論，電子・周期表，気体中の分子，液体と固体中の結合。

#### 取扱上の注意

連続する順序の実験題材を通して進歩することが生徒にとり不可欠であり，これが化学教育のまさに基礎である。

#### 「化学41－51(P)」

## 目標

化学現象に関する基本的概念を理解すること。

## 教育課程

1. 化学の基礎：化学の意味，物質の分類，物質の最小片，原子の構造，元素の周期的分類，原子価，化学結合。
2. 2つの重要元素：酸素と酸化，水素，もっともかんたんな元素，水。
3. 化学計算，式と構成，方程式とそれらの重さの関係，気体法則，気体の分子の重さと容積の関係。
4. 溶液，イオンと平衡，溶解と結晶，イオンと電気，酸・塩基・塩，化学反応の原則。
5. 金属の諸族，金属の属性，アルカリ金属，Ⅰ族
6. 炭素族，炭素の諸形態，炭素の酸化物，炭素の二酸化物。
7. 非金属の諸族，窒素族と化学変化を起こさない気体－ⅤおよびⅥ族，窒素の混合，酸素－硫黄族－Ⅶ族，塩素族－Ⅶ族。

「化学 41－51 (C)」

## 目標

化学現象に関する基本的概念を理解すること。

## 教育課程

1. 化学・科学および物質，化学および科学の定義，物質とエネルギー，予備調査。
2. 空気・水およびそれらの要素，空気，酸素，水素，水。
3. 第一原則：物理的变化とガス法則，運動の分子理論，化学変化と化学結合の法則，ダルトンの原子理論。
4. 分子と原子：分子と原子の違い，分子・原子問題を解く手がかり，分子と原子の重さ，記号と式，原子価，方程式と計算，モルとアボガドロの数値，化学と電子，元素の分類。
5. 現代の原子理論：原子の要素，原子番号，周期律，電気陰性度。
6. 液体と固体の性質：液体の状態，固体の状態。
7. 溶解と化学反応：定義と分類，電解質と非電解質，酸・塩基・塩，反応率，イオン反応， $\text{PH}$ 。
8. いくつかの非金属元素とそれらの化合物，ハロゲン，塩化水素，硫黄とその化合物の一部，窒素。
9. 酸化炭素。
10. 金属：金属の性質，電動回路。
11. イオンのテスト： $\text{SO}_3$ ， $\text{SO}_4$ ， $\text{CO}_3$ ， $\text{Cl}$ ， $\text{NH}_4^+$ 。

## **Ⅵ カトリック宗教教育**

「カトリック宗教教育 121」

## 教育

前期青年期の特徴の個人的体験は，期待・好奇心・広がる限界・子供らしい油断の喪失・成功など，強調されることである。これらの体験は，黙示録の重要な場面，とくに旧約聖書に発見されるものと結びつけるとにより，説明されることである。

## 目的

高校1年で，われわれは次を目ざす。

- 人間の出来事や経験への、キリスト教徒の見解を発達させること。
- キリスト教徒の罪から救いの歴史的次元に気付くことを発達させること。
- キリストの出来事の上に十分な意味を発見する旧約聖書の聡明な解釈を成就すること。
- キリスト教徒の生涯の奇蹟を再発見すること。

#### 内容

- 神は人間に人生の冒険をじゅうぶんに実行することを命じ給う。
- 神は人間に聖約をつくって与え給う。
- 神は人間に成功した生活をもつことを欲し給う。
- 神は、展開が聖約の状況の上に起こり、神が創造主であり、そして人間が創造物であり、創造の仕事を長びかせる事を要求する、ということを認識し給う。聖約信仰は、希望をもって創造を、そして絶望することなく世界の悪と不確実な未来を眺める。

#### 参考書目

“ A New Look at a New world ” （教師の案内書、生徒の案内書）

「カトリック宗教教育221」

#### 教育

強調は、個人的性質の内的経験、すなわち自己発展・失敗の畏怖・生命への熱情・他人への過敏性・熱中の開始・等に置かれる。これらの経験は、黙示録の重要な場面、とくに福音の中に含まれるものと結びつけることにより、説明されることである。

#### 目的

- 高校2年の年齢（13－14）では、われわれは次を目ざす。
- 人間の出来事と経験へのキリスト教徒の見解を発達させること。
- 福音への復帰を促がすこと。
- キリスト教徒の人生観の中核としてイエス・キリストの復活祭聖餐式を表現すること。

#### 内容

- イエス・キリストは、生命の充満であり、人間の切望を知り、人間の生活する願望の無限な実現を与え給う。
- 人間はじゅうぶんに生き、生活の完全な成功を欲する。イエス・キリストは人間の基本的な願望への新しい道を進み給う。
- イエス・キリストは人間の生活のすべてと、あらゆる人間の生涯を承認し給う。
- イエス・キリストは、その行動・態度・言葉により豊かな人生の良い知らせを公告し、生命の新しい王国を開き、この王国を建設する上のあらゆる人間のエネルギーを約束し給う。
- イエス・キリストの復活祭聖餐式により、生命の境界が死の境界を越えてひろがり、そして充実した生活への欲望が成就される。

#### 参考書目

“ A New Outlook at Life ”

「カトリック宗教教育321」

#### 目的

高校3年において、信仰問答の目的は、自己実現への探究・意味への探求、青年の性格と、この探求を準備し啓蒙するようなキリスト教徒の奇蹟の様子の間の、存在に関する総合として勧められることである。

### 指導計画および教育の内容

同一性への探究、調和への探究と神の言葉との関係は、次のような、この年齢群に共通の、いくつかの基本的な経験のまわりに成就されるであろう。

- a 世界における肉体の表現——ダンスをすること・顔つき・化粧・遊び・強さ・たわむれること・美のような具体的な例を、ここに与えることができる。これらの問題はわれわれに、創造・投獄・死・復活のような教義上の主題を思出させる。洗礼の、そして聖餐の奇蹟の意味は何か？
- b 行動——レジャー・評判・スポーツ・学校の勉強・職業・淋しき・お金・麻薬のような、具体的な問題を学習することができる。これらの質問は、創造・投獄・現に進行中の王国・やって来る王国（実際のならびに終末論の意味の青春期の活動）のような教義上の主題に付託する。堅信礼の奇蹟の意味は何か？
- c 以前の構造物と関係を絶つことを通して大人になる過程。権威・反抗・責任・宗教的習慣・従順・懺悔・親子関係のような具体的な例を、ここに与えることができる。

キリスト教の神は、自律へのこの熱望・自由へのこの突進を、勧め給うか否定し給うか？神の世界は抑圧的であるか自由であるか？キリスト教徒にとり真の自由は何か？これらの質問はわれわれを、三位一体（神の父権・イエスの人間の子権・聖霊のなかの生命、これは兄弟関係の源泉である）・罪と救済・隷属と子権・法律と信仰のような教義上の主題に戻す。告解の奇蹟の意味は何か？

### 参考書目

“Un sens au voyage” tome I - II - III

「カトリック宗教教育 421」

### 目的

同一性および意味への探究を強調した前の（3年）指導計画と調和して、今の指導計画は、15-16歳の青年期（4年）に、他人への漸進的な率直さと、この率直さを喚起して啓蒙するキリスト教徒の奇蹟の様子との、真の関連をつくることを勧めることを、目的にする。

### 指導計画および教育の内容

他人への漸進的な率直さと神の世界との関係は、次のような、この年代のグループに適当な基本的経験のまわりに成就されるであろう。

- a 性的なこと——恋愛遊戯をすること・性道徳・自由恋愛・男女共学・性的ダブル・結婚のような具体的問題を、学習することができる。本質的に関係のある神は、人間の存在を性的なことを通して、いかに求め給うか？愛である神は人間愛を、いかに引出し給うか？
- b 若者社会——生徒の反乱・論争・世代断絶・確実性・教会における若者の場所・等のような具体的問題が、学習されることができる。福音は若者に言うありがたいことをもつか？若者は信仰生活を送る特別な方法をもつか？
- c 価値体系——信仰・道徳・伝統と改革・幸福のような、質問を掲げることができる。福音書の理想は20世紀にどんな関係をもつか？キリスト教徒はどうして選択を決定するか？

### 参考書目

“La force des rencontres” Tome I - II “Faire la vérité”

「カトリック宗教教育 521」

### 目的

自己発見および他人への漸進的な率直さを強く主張した前の（4年）指導計画と協和して、今の

指導計画は、16－17歳の生徒（5年）に、社会的連帯と、この影響を示唆し啓蒙するキリスト教徒の奇蹟の様子との、真の関連をつくることを勧めることを、目的にする。

#### 指導計画および教育

社会的連帯への願いと福音の関係は、あらゆる人が精通しており、そして生徒がすでにかねらの年齢で経験してしまった、次のような、基本的問題のまわりに成就されるであろう。

- a 生命の意味は何か？——苦悩・罪・死・技術的発達・宇宙の人間の支配・進歩のような具体的問題が、キリスト教徒的観点から、接触され討論されることができる。
- b 神はだれか？——神意・奇蹟・運命予定説・祈り・復活のような問題を、掲げることができる。
- c 世界におけるコミュニケーション——宗教告白・社会的労働組合あるいは政治的連帯・違った生活様式・神のお召し・予言主義・カトリック教会のような、具体的な例をここに与えてもよい。  
「カトリック宗教教育」

#### 目的

- 教会が社会的教養を教える理由を発見する。
- 教会の社会的思考の神学的基礎を調べる。
- 生徒に社会的教義の精巧と応用における遂行に導く。
- 政治的・経済的・道徳的に発達する“人間社会”が、神の王国の成就と完全な救世主の建設のために、必要な特権のある地域である、ことを検証する。

#### この指導計画の内容

- 経済的・社会的生活を通して個人に価値を与えること。  
仕事 仕事の契約 俸給 個人の財産 共同管理 産業労働組合主義
- 人間の社会的特色と経済的・政治的生活。
  - a 家族段階：経済と家族 住居と家族 教育と家族 婦人と家族
  - b 国家段階：共通の福祉 社会化 中間の団体 国家計画 国有化 徴税  
ナショナリズムと愛国心
  - c 国際段階：人類のあこがれの増加する普遍性の認識 国際的公秩序
- 政治的・司法的秩序の確立における個人的責任。  
政治的共同生活体の性質と終熄  
経済的自由主義・資本主義：歴史・法律・結果と業績・現在の発達  
植民地主義（自決主義）  
民主主義とその必要条件 投票権とその他市民の権利と義務  
教会と国家の関係  
「カトリック宗教教育531」

#### 目的

この選択科目は、生徒に、世界の、そこで大きな流れの思考が不絶に対決している、多元的文化論にもっと精通するようになり、直視するよう準備させる。

生徒が没頭させられるのは宗教的要素自身である。現代世界は根本的に神・宗教・教会の問題に関係があり、無神論の経験は人間に経験されるより深ドラマを強調する。このドラマに気付くようになり、それをよりよく見つけて解決しようと試みるのが、この選択科目の目的である。

#### 指導計画の内容

- 不信仰と無神論：無神論と一般的な“神を信じない世界観”における不信仰

無神論と特殊な不信仰、無神論的思考者

- 真実の神の探究における信仰：信仰の完成      実践としての信仰      現代の教会における信仰の完成の意味

## Ⅶ 道徳教育（カトリック）

### 「道徳教育11（カトリック）」

#### 目的

- 生徒の新しい環境に調和のとれた適応を与える。  
○ 生徒が現在学校で訓練される目的の、人間の役割への広い展望を開く。

#### 内容

1. 私は新しい学校環境に入っている。 小学校と高校の比較：  
a それぞれの方法と精神      b 精神と方法の変化に刺激を与える理由      c 典拠、規律および規則      d 教育者と生徒の関係
2. 私がよく知っているこの世界において容易であるように、自分で用意すること：  
a 漸次住むに適する1つの世界      b 多くの顔の1つの世界      c 多くの点でやはり奴隷にされる1つの世界      d 外見上すでに変わってしまった1つの世界      e 確実に変化を保つはずの1つの世界
3. 私が変容をとにもするように求められている：  
a 人間が世界の主人である      b 自然の要素の解放の過程への肉体的・知的エネルギーの貢献      c 世界建設におけるこれらのエネルギー全部の価値の意識と感覚      d 明日の成就における適当な質問の重要性

### 「道徳教育21（カトリック）」

#### 目的

- 人間のなかの資質とよばれることができるすべてのものの学習により、人間の行為を助ける意識を生じさせる。  
○ 生徒を、かれ自身の個性をよく知るように導き、そしてその可能性の正しい認識を引出す。  
○ 生徒に、かれの所信の線に沿って創造するように教育する。

#### 内容

この変容は、次のような、天性の資質にだけでなく肉体の資質にもよく関係する。

1. 私の肉体的資質：a 人間の身体が形成された数百万年間      b 交替の過程における私の身体      c 成人（婦人）になるこの機会、およびそれが可能性と見方により違った適性を意味すること      d 私の身体とその知覚・探究・行動・表現の力
2. 知的資質：a 知性が関係する、人間の発展の間に実現される進歩      b 知的好奇心の成長      c 心の創作力      b 幸福と知識
3. 私の独創力に貢献する資質：a 違った程度の独創力      b 違った種類の個性      c 私の個性を発達させる理由と方法

### 「道徳教育31（カトリック）」

#### 目的

- 生徒に、自治の方向の感覚を与えることを助ける。  
○ 他人との会合や交流をする基本的な切な望みが明るくなる助けとなる。



- 人々を一体にし、また深く区別もするもの、すなわち性別のなかの、2つの会同と対決を準備する。

### 内容

この自己変容の過程において

1. 私はときどき孤独感をもつ：a 幼年時代から脱出して    b 私の自治を意識するようになり    c 自己信頼の不安定・不確実・欠如    d 伝達する私の必要
2. しかし私は、いかに多く他の人びとに縛られているかを、再発見する：  
a 私の仲間グループ    b 私が属するチーム    c 私の家族的束縛
3. そして、これがどれだけ成功することができるか：  
a 真の関係を創るもの    b 私の性的コミュニケーション能力  
「道徳教育41（カトリック）」

### 目的

- 生徒に、かれ自身である1つの社会、すなわち“若者社会”の一部であることを知らせる。
- 再組織の過程中的の1つの世界により要求される要素の、国家的・国際的真實に、統一の意識に、そして共働の精神に気付くことを発達させる。
- 生徒のなかに、生徒がこうむりやすい強い圧迫のあるところで、批評の態度を創造する。

### 内容

私は1つの社会、すなわちケベックの“若者”の一部である。かれらとともに：

1. 私は質問する：a 社会的序列としての若者    b その抱負    c その業績  
d 成功の好機    e 外国の青年との関係
2. そして次について自問する：  
a 学問的世界    b 労働市場、技術と進歩の世界の序列    c 金融的世界  
d 性的世界の秩序    e 宗教的世界    f 国際的世界秩序  
「道徳教育51（カトリック）」

### 目的

- 生徒を、人間の共同地域社会の更新、その再組織と別組織に従事するように、指導する。
- ある趣味を助長し、そして基本的問題に関する、たくさんの研究を発達させる。
- 社会の構造と生徒自身の構造が絶えざる再開始であることを知る。
- 生徒に、参加しないかもしれないが、しかし解決の探究のとき、りっぱな洞察を獲得することを助けるかもしれない、意見を客観的に分析させる。

### 内容

1. ただ1つの解決は参加にある：  
a 何が参加か？    b 真の参加に関係する事情    c 参加の意味
2. とくに、次に参加しなさい：  
a 革新計画    b 職業の革新    c 夫婦の革新    d 道徳および価値の革新  
e 政治の革新

## **Ⅷ 道徳・宗教教育（プロテスタント）**

「道徳・宗教教育120,220,320,421,521（プロテスタント）」

### 目的

- 生徒に、生命の完全な部分としての宗教への認識を漸次に深くする。
- 歴史的存在的背景の中の、そして今日活きた勢力としての、両方のキリストの、生徒の理解を発達させる。

#### 内容

高校の科目は、いろいろの比率で3つの要素、すなわち道徳的要素・聖書的要素および歴史的要素を含むべきである。

#### 示唆される題目

旧約聖書とイエスの生涯、教会史の初歩、カナダの聖職、1つの社会的価値への接近、家族。

#### 指導上の注意

われわれは、宗教・道徳教育と芸術、歴史、文学および科学のあいだの数多くの相互関係を示唆する。

教師は生徒に、より大きな独立独歩を与える一方、人間の共同地域社会にたいする責任の意識を発達させる、課題を実行するように勧めるべきである。

## **IX 地 理**

### **「地理12」**

#### 目標および教育上の注意

12乃至13歳のための一般地理の学習は、まず第一に、地理の分野を探究し調査する段階である。それゆえこの科目の重要なことは、きわめて多数の事実を学ぶことでなく、むしろ具体的な模型の学習から抽出される、かんたんではっきりした概念を獲得し理解することである。地元の環境のなかや地方のなかに存在する地理的事実の観察が、実用向きの勉強と同様に、この科目の教育上重要な地位を占めるべきである。

#### 内容

- 全体としての地球の学習
- 世界の景観の自然的要素の学習
- 人文地理のいくつかの様相

#### 参考書目

Wooldridge, S.W. and W.G. East. The Spirit and Purpose of Geography.  
London, 1967.

### **「世界地誌31」**

#### 目標

この科目の目標は、世界地図の理解、いくつかの国およびそれらの間に存在する関係の知識の初歩を、生徒に教えることである。例えば、いくつかの先進国と関連していくつかの低開発国を学習する。教師は他国よりもアメリカ合衆国にもっと重点を置くべきである。

#### 内容

- ヨーロッパ、アジア、アフリカ
- 南・中央アメリカ
- 北アメリカ

### **「地理42」**

#### 目標

カナダ地理の学習は、自然・人文および経済の要素のあいだの関係を確認することを、生徒にさせるべきである。例えば、教師は生徒に、気候と植物とのあただの、田舎の人口の減小と都市の現象のあいだの、植物帯と森林の開拓のあいだの、水の汚染と商業的漁業のあいだの、アメリカ合衆国の地理とカナダの地理のあいだの、等の関係を見ることを案内することができる。

#### 教育上の注意

可能なときはいつでも、教師は、地図、スライド、写真、統計概要、図、その他視聴覚方法で観察できる地理的事実を利用すべきである。生徒はそれら各種の資料を分析することを通して地理を学習すべきである。ケベックの学習に与えられる目だつことは全国のなかの自分たちの環境の重要性を眺めることを生徒にさせるであろう。

#### 内容

##### ○題目アプローチ

- a カナダ地理の自然的様相 地形地域、地形、気候、水、土壌、生物地理。
- b カナダ地理の人文的様相 一次・二次・三次経済活動、人口、都市学習、田舎の生活。

##### ○地誌アプローチ

楯状地と北方地方、南ケベックと南オンタリオ、プレーリー諸州、西部コルジレラ、大西洋地域。  
「地理51」

#### 目標

地理空間の学習は、人間とその環境のあいだの関係を見せ、そして多様な人造の経済体系の主要な要素をもたらさねばならない。教師は、都市が自然的環境の犠牲の上に構築された人間の環境であることと、世界の商品（小麦、米、石油）の運送が、諸国をますます相互依存させる、交通の体系を創造することを、指摘することができよう。究極の分析において、この科目のゴールは、事実の集積よりむしろ生徒に理解力を発達させること、であるべきである。

#### 内容

- 資本主義経済をもつ国
- 集産主義経済をもつ国
- 世界の食料資源
- 世界の動力資源

「地理52」

#### 目標

生徒に、地理の自然と人文の様相のあいだの狭い連絡の、かれらの知識を承認して拡大させること。

#### 教育上の注意

地理の自然および人文の様相は、2つの間の鋭い区別をつくる項目の表を通してさえ、分離されないであろう。Emile Marry は書く、“地理の諸事実は、互いに密接な関係があり、そしてかれらの多数の関係のなかで考えられねばならない。気象学上、動物学上、植物学上、ある事実をそれら自身のため研究するため、それらを孤立させることができる。地理学では、孤立させられた事実を記述するという第一段階は、それらの相互の影響の研究に導かねばならない。これがJean Brunhes が謂った、関係の原理である。地理の知識は本質的に関係の知識である。”と。

地理実験室の頻繁な使用がこの科目の教育上著しく価値があるであろう。

#### 内容\*

#### 一般自然地理

- 宇宙のなかの地球
- 地球の構造
- 大気と気候
- 水界
- 岩石圏

#### 一般人文地理

- 人口の研究
- 生活様式の問題
- 工業の景観
- 都市地理

＊ 地理の自然および人文的様相は、このプログラムのなかに別々に表示されるけれども、分離されてはならない。

## X 歴 史

### 「歴史21」

#### 目標

今日の、そして昨日の人の観察は、人間の多くの次元、すなわち、物質生活を組織する人間・社会生活を組織する人間・価値体系を精巧に作る人間・過去および現在の暴力を制御する人間・未来を準備する人間・等を、生徒に発見させる。どうして今日の人びとが過去を理解する手伝いをしてくれることができるか？ どうして過去が今日の世界を理解する手伝いをしてくれることができるか？ どうして現在と過去が人間生活の歴史的次元に気付かせることができるか？

#### 内容

##### 第1部 歴史時代

- |          |               |
|----------|---------------|
| ○変化の概念   | ○歴史の資料        |
| ○年代の概念   | 文献のない証拠 文書    |
| ○時間の測定、暦 | 音声の記録 目に見える証拠 |

注意：歴史の証拠は人間の“痕跡”を結びあはゆるものである。

##### 第2部 時代のなかの人間

仮定：歴史は本質的に、時代のなかのそして社会のなかの人間の学習である。

#### 教育上の注意

教師は、古代史、中世史、近代史、現代史の体系的学習を忘れて、それに代え、生徒の年齢を考えた新しいアプローチにより、歴史の学習に刺激と感覚を与えるべきである。この新しいアプローチは、文書の学習にと生徒の個人的熱中により多くの重要性を与えるべきである。生徒に真実を質問させ、そしてしたいに歴史家の方法の初歩を（生徒ならびに環境の可能性によって）教えるべきである。教師と生徒に、どんな教材が歴史への導入にもっとも好適であるか、を決定する好機を与えるべきである。この見透しから、教師は、年代順にか次の主題により、現在または過去から出発する歴史を学習し、そして写真・講演・新聞・指導勉強・自由勉強・チーム勉強・等をもっと多く使用する。教師は自分の教育方法を決定する。

#### 参考書目

Burston, W.H. and C.W. Green, Handbook for History Teachers, London, 1962.

Burston, W.H. Principles of History Teaching. London, 1966.

Strong, C.F. History in the Secondary School. London, 1963.

### 「歴史31」

#### 目標

生徒に、かれのまわりに起こりそして世界の画期的事件をあらわす、重要な出来事に親しませ、そしてわれわれの現代世界の問題の全般的考察を与えること。

### 内容

この指導計画の範囲を考へて、近代および現代の世界に痕跡を残してきた大きな出来事に、生徒をとくに親しませるために、じゅうぶんにプログラムを減らすことが賢明であろう。

1. 大発見時代のアメリカ
2. アメリカ合衆国の誕生と発達
3. 産業革命と新ヨーロッパ
4. 国際連盟以後の国際関係
5. ソビエト連邦と現代デモクラシー
6. 今日の世界問題

### 「歴史41」

### 目標

“どの市民も、毎日の出来事を認識する上で、かれがその中に住む政治・経済・文化または社会の情勢の、全般的考察とかならず関係する、と歴史家Haurice Séguin は書いている。かれがそのような質問の姿勢をとらねばならないとき、かれは歴史的説明にたよることを避けられないであろう。”(Initiation à l'histoire du Canada, les normes. Montréal, 1966. 1頁)われわれの世界の説明は、基準の体系と同様に、現在のみならず過去も考慮するであろう。この考えが受容されるならば、歴史教師の責任は、生徒にこの観点を課すことでなく、それら以前に起ったことなどを通して現在の状況を“理解しそして生徒に理解させる”(Lucien Febureの表現を使って)ことである。The War of the Conquestの中でGuy Frégaultは“それが建設された過程を示すことを通じて現在を説明することは、本当に歴史の面白味の1つである。”という。この科目を教える上で、教師は、この国の社会・経済・文化史を無視しないで、フランス領およびイギリス領カナダの政治革命を生徒に理解させることに、努力するであろう。教師はまた、教育が授業に適合されるように、生徒の知的能力・偏見・個人的動機付けを考慮すべきである。

### 内容

ニューフランス、カナダおよびケベックの歴史

1. 16世紀の主要な探検
2. ニューフランスのフランス人と1750年までのカナダ社会の革命
3. 1610年から1763年までの北アメリカの分割 — フランス帝国対イギリス帝国
4. イギリス領北アメリカのカナダ人 — イギリス帝国によるカナダ人の同化作用      イギリス領北アメリカの分割      イギリス領カナダの拡大
5. “カナダ革命” — 商業的局面      国家的局面      社会的局面
6. 連邦政治的統治への発展
7. 州の創設(1867)と多民族国家における力の分散
8. カナダと次との関係 — 州      アメリカ合衆国      大イギリス
9. ケベックとその問題 — カナダ人(すなわち、連邦一州の関係、徴兵, Riel等)      工業化政治生活(すなわち、構成、政党、議会組織、行政、等)      社会・文化問題      憲法上の問題
10. 特別な問題

注意: 1-9はSyllabus No609, 2版1971, 9.の各章を再編したものであるが、10はそのどの章にも参照できない。これは、教師に、その年度中にじゅうぶんに取扱われなかった歴史の問題を深く学習する、好機を与えることを目標にする。それは、カナダにおけるインディアン、ニューフランスの社会構成、カナダ-アメリカの関係、カナダまたはケベックの(昨日または今日

の) 何人かの指導者, 今日のある問題( 水力の国有化, 都市問題, 社会情勢, 憲法の修正, ケベックとフランス語を話す住民をもつカナダとの関係, 国際組織におけるカナダの役割) の事例であることができればよい。教師は選択した1つの問題を学習するのに3週間まで費すことができればよい。

#### 参考書目

Dance, E.H. History the Betrayer. A study in Bias. London, 1964.

Hodgetts, A.B. What Culture? What Beritage? Report of the National History Project. 1968.

McDiarmid, G. and D. Pratt. Teaching Prejudice. A Content Analysis of Social Studies Textbook. Toronto, 1971.

#### 「歴史 51」

##### 目標

この科目の目標は, 生徒が中に住む世界の, 生徒の認識を増すことである。この摘要は, 今日の世界の主要なブロックの学習と同様に, 現代の文明の学習を想見する。教師は, 今日の世界の歴史の基礎と関係を知らせる一方で, 重要な時事問題を探してもってきて, その発展におけるそれらの影響を強調するであろう。

##### 内容

この科目は1750年から1965年までの世界歴史の全般的概説を提供することを企てる一方で, それは次のテーマにおもな注意を払う。

1. 革命: アメリカ, フランス, ロシア革命ならびに各国家の革命期の余波の, 共通で画期的な特徴に強調をもつ。
2. ナショナリズム: 19世紀ヨーロッパ, アメリカ合衆国の隆昌, 現代のカナダと日本の国の成長に強調をもつ。
3. 工業主義: イギリスの経験を強調し, 急速な経済成長の経済的および政治的影響の綿密な学習を準備する。
4. 戦争と平和: とくにナポレオン戦争や20世紀の諸戦争, 平和維持の機関。
5. 政治的・経済的イデオロギー: 18世紀から20世紀までのこの項目の徹底的吟味。

#### 「歴史 52」

##### 目標

文明の学習は, それが歴史の骨組みのなかに自然に位置しているから, 複雑である。歴史の伝統的な骨組みが経済・社会史の圧迫によってばらばらに引きちぎられてしまったから, 人間活動の全体を包括することは歴史を説明するのに便利である。その目標は政治的年代の不毛の枠組みのなかに歴史をはめとむことではない。

##### 内容

○ 古典古代の諸文明

○ 最初の文明

2つの農業文明      2つの海上文明

○ ギリシア

市民の誕生      ギリシア文化      ギリシア宗教

○ ヘレニズム文明

アレキサンダーの時代の帝国    アレキサンドリアとベルガモス    オリエントギリシアとの融合

○ローマ文明

原初の市民    共和国    社会・経済的展開    価値の体系

○ローマ帝国の衰退

○古代からの遺産

## XI 体 育

「体育（男子）12,22,32,42,52」「体育（女子）12,22,32,42,52」

### 目標

1. 各個人は動的な存在である。生理的・感情的または能動的にしる、かれの多様な機能の組織と調整がかれに、独特さを与え、自己統一に向かわせる。

2. 各人とその環境の間に設定される関係は、かれの個人的発達に決定的影響を及ぼす。環境と個人の関係のうち次の種類を選択する。すなわち自己、他人、グループ、自然、対象。

3. 肉体訓練、スポーツおよび屋外活動は、多種の機能水準の適当に均衡した成長にじゅうぶんな考慮をもって関係させられるとき、個人的発達をひじょうに助ける。

このため体育の全体の目標はこれらの多種の機能水準である。体育の特別の目標は、個人が肉体的運動を通してかれの環境とともに設立する、次の違った関係の発達である。

自己 ↔ 自己    自己 ↔ 他人    自己 ↔ グループ    自己 ↔ 自然    自己 ↔ 対象

体育はその目標に達する手段として運動を使う。

個人とかれの環境の間の多種の関係のうち1つ以上を設定する上で、それらの有効性によって違った種類の運動を分類することは役立つに違いない。

自己 ↔ 自己：ヨガ    創作ダンス・リズム的なもの    陸上競技（ランニング）

自己 ↔ 他人：ボクシングとレスリング    テニス    バドミントン    フェンシング  
ピンポン    スカッシュ

自己 ↔ グループ：バスケットボール    バレーボール    ハンドボール    サッカー  
フットボール    ホッケー（アイスホッケー・フィールドホッケー）    水球    ラクロス  
ラグビー

自己 ↔ 自然：帆走    登山    水泳    競漕と徒歩旅行    柔軟体操    スキー    クロスカントリー・ハイキング

自己 ↔ 対象（器具）：陸上競技（跳躍・投擲）    体操    体操用棍棒・啞鈴・等    洋弓  
ゴルフ    サイクリング

### 体育プログラム

教育委員会は、肉体運動（ゲーム、スポーツ、戸外運動等）によって上述の目標を達成するために、体育の指導計画の設置に伴う、違った学校の施設を調整するであろう。

体育のこのプログラムは2つの部分、すなわち必修の部分と任意の部分を含む。それは、教育省により公刊された中等教育体育要綱に基づく。

### 取扱い上の注意

次の規定は地方的プログラムの調整に適用されるべきである。

○あらゆるスポーツまたは屋外活動は、プログラムの1つ以上の部分に表示されてよい。

○各個人とかれの環境の間の違った種類の関係の発達に役立つような活動の最小限度が、高校の科目の各学年段階で提供されるべきである。

○最大限度の継続がプログラムの構成において確実にされるべきである。この継続は、プログラムの2つの部分によって提供される多種の活動を計画する上で、予知されるであろう。それはまた、できるだけ分野における専門家であるべき教育者に、同じ生徒と多くの接触をさせる編成によって、助長されるであろう。

紙幅が尽きて、これ以上掲載できなくなったが、最後に1つだけ略述しておきたいものに、外国語がある。

移民受入国カナダでは、各種のヨーロッパ系民族がそれぞれ各地でコロニーをつくる。かれらの家庭で使用される言語を無視できず、ために多種の言語の教育が容認されることになる。それらの教育方法は、第2国語のものにだいたい準じている。そして、州統一試験もあるが、その50%が口頭、残り50%が筆記である。

ラテン語とギリシア語の教育が、文章を読解することを中心に、古典文明の学習を含めて、今なお存続する。わが国の漢文教育と対比して、興味深い。